

# 2017 農業と自然を体験 砥山農業小学校通信

## 雨あがり 緑滴る砥山

札幌地方は午前8時過ぎから小雨になり昼過ぎまで降り続くあいにくの空模様となりました。気温は低めで湿度80数パーセントと梅雨のよう。しかし、皆は合羽を着こんだりして雨対策はバッチリ。何事もなかったかのように元気にリンゴ畑に出かけることができました。

前回、皆で植えたジャガイモやタマネギはどうなっているでしょうか。農家の人たちは天候不順など自然が農作物に及ぼす影響を絶えず心配しなければなりません。今日のように私たちも少しだけ悪天候を体験することにより、農業者の気持ちを理解することができれば雨降りもいいですね。



【雨が降り続く中、農業と自然の関わりについて学習しました】

### 果樹園見学 10:20~



【摘果前のリンゴ。一つ(中心果)を残して摘み取る】

砥山ふれあい果樹園園主の瀬戸さんから、今日予定していたリンゴの摘果について説明を聞きました。

開花や果実の成長には貯蔵養分、光合成産物、根から吸収された無機成分を多く必要とするため、花数や果実数が多すぎると果実が小さくなったり、樹体生育などに様々な悪影響があること。そのため、余分な果実、蕾、花を開く必要があります。すべて摘果作業は人手で行われるのですが、気の遠くなるような仕事であることが分かります。

また、リンゴの木に発生する病気「腐らん病」や害虫、野鳥、鹿などの食害や風雨・低温などの自然の影響について詳しい説明を聞きました。農家はこうした影響から果樹を守るためにたくさん苦労されていることがよく分かりました。

降雨のため実際に摘果作業は行えず、果樹園見学を終えました。

### ブドウの葉もぎ 11:15~

野外教室は八剣山ワイナリーに場所が移りました。雨も小降りになり、ワイン用ブドウの圃場で葉もぎを体験しました。ワイナリースタッフから無数にある枝葉の中でどの葉をもぐか、どの芽を欠くか実演と共に説明を受けました。ブドウそのものを味わい深く豊かに育てるために必要な作業であることが分かりまし

た。根から吸い上げられた養分が効果的に実に回るようにするためには葉や茎が繁りすぎないように調整することが必要でリンゴで受けた説明と共通することが分かりました。



【ブドウの葉もぎ】

また、ブドウの糖度を上げるためにも日光がブドウに十分当たるようにするという目的もあります。

もぎ取った茎の先端の柔らかい部分は園主の亀和田さんが天ぷらにしてくれ、皆で味わいました。

### 野菜の苗植え・観察 13:00~

畑の状態が雨によりぬかるんでいて野菜苗植えができないため、ハロウインカボチャとそうめんカボチャだけを植えました。スタッフがあらかじめ畑こぐを開け苗を配置してくれました。他に予定していた枝豆、ニンジン、ゴボウ、落花生、サツマイモは畑の回復を



【ハロウインカボチャを植えました】

待ってスタッフが植えてくれることになりました。スタッフの働きに感謝です。

一方、種イモを植えてから28日。畑では約40cmにも育った3種類のジャガイモが皆を迎えてくれました。生長の速さにびっくり。順調な生長に皆ホッとしました。8月の収穫が楽しみです。



【写真：ジャガイモ観察】  
【写真右：定植を予定していた野菜苗】



### イチゴの収穫 14:00~

桜井農園に移動して、今日一番楽しみにしていたイチゴの収穫です。園主の桜井さんは「イチゴを収穫するには前年の9月頃に植えなければなりません。その新しい苗は2年間育てて初めて定植できる」と苦労話の一部を紹介してくれました。ハウスには真っ赤に熟した「けんたろう」が待っていて、皆、「甘ーい！」と感激。心行くまでイチゴ狩りを楽しみました。



【「けんたろう」】「きたえくぼ」と「とよのか」という品種を掛け合わせてできた。2000年に北海道優良品種に認定される。果肉が大きく、甘みが強い。果肉は少し硬め。北海道の人気品種の一つ。

### 【お客様】 オーストラリア(東海岸プリズベン近郊)から来日



中の、一川シャノンさんの祖母レオーニさん、姉ペロニカさんが参加され、砥山の自然を楽しまれました。「雨も美しく楽しかった。帰ったら砥山がどんなにきれいだったか皆に伝えたい」と話していました。

6月11日の活動



岩井ファミリー（先月紹介できませんでした）



工藤ファミリー（先月紹介できませんでした）



ブドウの葉もぎ作業。真剣です。



判断が難しい



ブドウの葉の天ぷら試食



陶芸用粘土採取の実演



カボチャ苗定植



植えた後は保護のためネットを掛けました



見事に生長しているジャガイモ



足下に注目！雨でぬかるんだ畑



イチゴについて説明を聞きました



ハウス内



イチゴ おいしかったです



畑で味わうイチゴは格別



イチゴにピース



種類は「けんたろう」



サクランボは来月収穫

参加者の声

Q: 碓山農業小学校にどのようなことを期待しますか。

A: 子どもたちに、食べ物はどうやってできるのか、土は何をしているのか、草や木は何かの知ってほしいと思いました。当たり前のことですが自分もジャガイモがどうやってできるのかきちんと知りたかったです。妻がオーストラリアの出身で、実家は農業ではありませんが、あの国の農業はとてつもなく大規模ですが食についてこちらのように学ぶ事は難しいと思います。

（一川康男さん）

発行：碓山農業クラブ

（代表 瀬戸修一 校長 桜井 学）

住所：〒061-2275

札幌市南区碓山126番地 八剣山果樹園内

電話・FAX：011-596-2280

E-mail: info-h@hakkenzan.jp

http://www.hakkenzan.com/nosyo/